

13:30 ~ 13:35 開会挨拶

13:35 ~ 14:20 講演 1

金子隆一 (国立社会保障・人口問題研究所 副所長)
「人口の長期動向と世代継承」

西村幸満 (国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部 第2室長)
「若者の就職と希望」

14:20 ~ 14:35 休憩

14:35 ~ 15:20 講演 2

大石亜希子 (千葉大学法政経学部 教授)
「24時間・週7日経済における労働と社会保障」

相馬直子 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 准教授)
「ダブルケア時代の家族政策」

片桐恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授)
「サードエイジの市民参加」

15:20 ~ 15:35 休憩

15:35 ~ 16:25 将来世代からの意見陳述

パネル討論

●パネル討論者

金子隆一 (国立社会保障・人口問題研究所 副所長)
西村幸満 (国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部 第2室長)

大石亜希子 (千葉大学法政経学部 教授)
相馬直子 (横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 准教授)

片桐恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授)

●モデレーター

森田 朗 (国立社会保障・人口問題研究所 所長)

16:25 ~ 16:30 閉会挨拶

● 厚生政策セミナー ●

国立社会保障・人口問題研究所は、内外の人口ならびに社会保障をめぐる問題について議論し、理解を深める場として、毎年1回テーマを決めて「厚生政策セミナー」を開催しています。前回までのテーマは以下の通りです。

- | | | |
|---------------------------|-------------------------|----------------------|
| 第1回「福祉国家の再構築」 | 第2回「少子化時代を考える」 | 第3回「福祉国家の経済と倫理」 |
| 第4回「21世紀の家族のかたち」 | 第5回「アジアと社会保障」 | 第6回「地球人口100億の世紀」 |
| 第7回「こども、家族、社会」 | 第8回「人口減日本の選択」 | 第9回「社会保障制度を再考する」 |
| 第10回「超少子高齢・人口減少社会の課題」 | 第11回「社会保障と日本経済」 | 第12回「超少子化と家族・社会の変容」 |
| 第13回「新しい社会保障の考え方を求めて」 | 第14回「長寿革命」 | 第15回「暮らしを支える社会保障の構築」 |
| 第16回「東アジアの少子化のゆくえ」 | 第17回「地域の多様性と社会保障の持続可能性」 | 第18回「国際人口移動の新たな局面」 |
| 第19回「多様化する女性のライフコースと社会保障」 | 第20回「地域人口と社会保障をめぐる諸課題」 | |


将来世代に引き継ぐ社会と 社会保障制度を考える


Visions for the future Japanese society and social security system

～人口減少社会を支え続ける**社会保障**の挑戦～
- Social Security System for a Sustainable Society in the Era of Population Decline -

日時 2016年**12月1日(木)**
13:30～16:30(開場13:00)

会場 **日比谷コンベンションホール**
〒100-0012
東京都千代田区日比谷公園1番4号

 @ipssgojp

 <https://www.facebook.com/ipss2014>

将来世代に引き継ぐ社会と社会保障制度を考える

Visions for the future Japanese society and social security system

～人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦～

- Social Security System for a Sustainable Society in the Era of Population Decline -

開催趣旨

当研究所では毎年1回テーマを決めて「厚生政策セミナー」を開催している。一昨年に人口問題研究所設立75周年（1939年8月設立）、昨年に社会保障研究所設立50周年（1965年1月設立）、そして本年が国立社会保障・人口問題研究所設立20周年（1996年12月設立）にあたることから、これらを記念するセミナーを3回連続で開催している。共通するテーマは『人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦』である。

この共通テーマの下での最終回にあたる平成28年度においては「将来世代に引き継ぐ社会と社会保障制度を考える」と題し、将来にわたる人口動態とそれともなう経済社会変動に対応して、どのような社会保障制度をどのように維持・構築していくのか、という問いを、「将来の当事者」である若者世代を含めた参加者と共に考えることにする。

低下を続けてきた合計特殊出生率はここ数年下げ止まり、やや反転している。しかしながら、人口減少は今後出生率が劇的に改善したとしても長期にわたって継続することがわかっている。また、人口高齢化を促進する長寿化も引き続き進展すると予測されている。このため、団塊の世代が後期高齢に到達する2025年以降各種の課題が深刻化すると見られ、とりわけ医療・介護費用の問題が顕在化することが懸念される。

他方で、かつて数%に過ぎなかった50歳時未婚率が男性20%、女性10%を超えてなお上昇を続けており、結婚しない、子どもを産まない、という選択が静かに広まりつつある。このような近代家族のゆらぎのなかで、社会保障制度はこれまでと同様の理念・原則で運営されるべきであろうか、そしてそれは可能だろうか。本セミナーではこの点について、各種データに基づいて議論を展開したい。

少子化や人口減少といった人口の構造的な変化は、我々一人一人が望ましい社会を構築し、自らのあるべき人生を追い求めた結果の総体として見ることができる。すなわち人口変動は、社会保障制度や税制、就業の仕方、働き方の慣行、世代継承についての考え方など、人々の人生の在り方についての価値観や、家族などとの関係性にも規定される。

外的な環境の変化に応じて、人々が様々な場面において社会保障制度に求める機能は変化するであろう。自身のライフコースをどのように思い描き、どのようなタイミングで働き始めるか、子どもを持つか持たないか、働き方をどのように自身や家族の状況に合わせるか、家族内のケアをどのように行うか、そして自身の老いをどのように受け止め、豊かなものとして行くのか。人々の多様化する選択を、はたして社会保障は支えられるのだろうか。

人々のライフコースや社会の有り様と社会保障制度との相互作用の中で、既に起こった未来としての少子高齢化社会における社会保障制度はどのように機能を維持・向上していくべきか考えたい。

当研究所は政策議論の基礎となるエビデンスを着実に提供すること、社会保障・人口問題に関する科学的でハイレベルの研究を実践することを存在意義と自覚し、将来人口推計の実施や革新的・先端的研究への挑戦、研究分野全体の向上に取り組んできた。そうした国立社会保障・人口問題研究所の20年の歩みについても本セミナーを総括と評価の場とし、次の20年、さらにはその先へと続くビジョンの形成につなげたい。

講演者



金子隆一（国立社会保障・人口問題研究所 副所長）

1982年東京大学大学院理学系研究科修士課程(自然人類学)修了。ペンシルバニア大学人口学博士。社人研に参加以来、プリンストン大学、ロックフェラー大学における在外研究、米国人口会議奨励研究員などを経て2012年より現職。日本人口学会会長。人口変動メカニズムの研究や全国調査に従事するかたわら東京大学非常勤講師等、教育にも従事。主著に『ポスト人口転換期の日本』(2016年編著)、『人口減少と日本経済』(2009年共著)、『21世紀の統計科学I』(2008年共著)など。



西村幸満（国立社会保障・人口問題研究所社会保障応用分析研究部 第2室長）

1998年東京工業大学理工学研究科社会学博士課程単位取得満期退学。日本学術振興会 特別研究員、東京大学社会科学研究所附属日本社会研究センター助手を経て、2003年より現職。『希望学 明日の向こうに 希望の福井、福井の希望』(2013年共著)、「第2職の重要性—『初職からの移行』における現代の課題」(2015年、共著)など。



大石亜希子（千葉大学法政経学部 教授）

一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。学術博士(千葉大学)。日本経済研究センター研究員、国立社会保障・人口問題研究所室長を経て現職。専門は労働経済学、社会保障論。日本学術会議連携会員(経済学委員会)、内閣府男女共同参画会議重点方針専門調査会委員。主著に『実効性のある少子化対策のあり方』(経団連出版、2015年、共著)、『子育て世帯の社会保障』(東京大学出版会、2005年、共著)など。



相馬直子（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 准教授）

2005年東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻国際社会科学博士課程単位取得満期退学。日本学術振興会特別研究員を経て2007年より現職。「ダブルケア」についての調査・研究を英国ブリストル大の山下順子上級講師と共に進めている。「子育て支援と家族政策：家族主義的福祉レジームのゆくえ」(2013年)、「The Double Responsibilities of Care in Japan:Emerging New Social Risks for Women Providing both Childcare and Care for the Elderly」(2015年、共著)など。



片桐恵子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授）

2006年東京大学大学院人文科学系研究科博士課程修了。博士(社会心理学) (東京大学)。2008年財団法人日本興亜福祉財団社会老年学研究所主席研究員、2013年より現職。この間、大阪商業大学JGSS研究センター嘱託研究員、東京都健康長寿医療センター研究所協力研究員、練馬まちづくりセンター 運営協議会委員、独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター運営協議会新規研究開発領域事前評価部会部会委員等を歴任。主な著書に『退職シニアと社会参加』東京大学出版会2012年、「The Road to Successful Aging: Older Adults and Their Families」(共著)など。

モデレーター



森田 朗（国立社会保障・人口問題研究所 所長）

1976年東京大学法学部卒業、千葉大学法経学部助教授、1994年より東京大学大学院法学政治学研究科教授、2004年同公共政策大学院院長、2012年学習院大学法学部教授、東京大学名誉教授。2014年4月より現職。財務省関税・外国為替等審議会会長、厚生労働省医療ICT化推進懇談会座長、前厚生労働省中央社会保険医療協議会会長。専攻：行政学、公共政策。著書等：『許認可行政と官僚制』(岩波書店、1988年)。『会議の政治学』(慈学社出版、2006年)。『制度設計の行政学』(慈学社出版、2007年)。『会議の政治学II』(慈学社出版、2014年)。『会議の政治学III』(慈学社出版、2016年)。